

秋田県に於けるトキソプラスミン

皮内反応実施成績について

本庄保健所	児島三郎
〃	桜井尚
秋田保健所	松井タカ
〃	細部弘
衛生科学研究所	児玉栄一郎
〃	藤沢宗一

最近人畜共通の伝染病としてトキソプラスミン症（以下T症と略記する）の問題が注目されるようになった。

然し秋田県に於いてはこれについての疫学的な報告は絶無に等しく、唯小林、田近等の家畜衛生の面で1、2の報告があるのみである。

即ち小林等は昭和35年天王の経営伝習農場に発生した病豚の病変組織から Pseudocyst を確認し、罹病豚18頭の血清について色素試験を行ないその16頭が陽性であったと云う。

又昭和36年田近等は県内の飼育豚 308 頭にトキソプラスミン皮内反応を実施したところ12.6%が陽性を示し、更にそのうち100頭について色素試験を行なった結果、両者の陽唯一致率は75.1%であると報告している。

これらの成績から推して本県の家畜、殊に豚に於ける本症の浸淫度は軽視出来ないものがあるかと考えられる。

一方公衆衛生の立場からすれば、日常家畜に接する機会の多い職業に携る人々のT症抗体の有無の調査も等閑視し得ないことと考へ、昨年本庄、秋田地区に於いて若干の調査を実施したので報告する。

- 1) 方法 トキソプラスミン皮内反応
- 2) 対称 屠場及び食肉関係者、他にこれら職

種に關係の無い対照者14名

- 3) 実施場所 本庄保健所及び秋田保健所
- 4) 成績

地区別陽性数

成績 地区別	接種数	陽性数		
		24 hr	48 hr	計
秋田保健所	50	32	4	36 72.5%
本庄 〃	53	21	2	23 43.4%
計	103	53 51.4%	6 5.9%	59 57.3%
対 照	14	4 28.5%		4 28.5%

使用抗原は伝研常松教授より分与を仰いだもので、接種部位は前膊屈側皮膚にツベルクリン注射器で正確に0.1mlを皮内注射し、24時〜48時の2回に観察し何れか強い方の反応をとった。その結果表に示す通り実施者103名中59名が陽性と判定され、比率は57.3%である。これを地区別に見ると秋田が72.5%、本庄が43.4%で秋田地区が遥かに高い成績である。又同時に実施した対照者（これは秋田保健所事務職員及び高等看護学院学生である）14名中4名が陽性でその比率は28.5%となる。

職種別陽性数

職種	接種数	陽性数		
		24 hr	48 hr	計
獣医師	24	15	1	16 66.6%
屠夫	7	4	1	5 71.5%
内臓取扱	15	6		6 40.0%
枝肉	2	2		2 100.0%
皮革	1		1	1 100.0%
家畜商	6	4	1	5 83.3%
食肉販売	25	10	2	12 48.0%
その他	23	12		12 52.0%
計	103	53 51.4%	6 5.8%	59 57.3%

実施職種は獣医師（これは屠畜検査員及び家畜保健衛生所職員）以下表の通りで、その他とあるのは食肉加工工場の従業員である。

これらのうち数は少ないが枝肉、皮革取扱人が最高100.0%の陽性率で、次いで家畜商の83.3%、屠夫71.5%、獣医師66.6%、その他52.0%、食肉販売48.0%、内臓取扱人40.0%と云う成績である。

年齢別陽性数

年齢別	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70以上	計
接種数	8	31	23	32	8		1	103
陽性	3 37.5%	16 51.2%	12 52.1%	23 71.5%	4 50.0%		1 100.0%	59 57.3%

次に陽性者の年齢別による内訳は、70才以上1名(100.0%)を除けば40才~49才が71.5%、30才~39才、52.1%、20才~29才、51.2%、50才~59才、50.0%、0~19才が37.5%である。

むすび

日本人のT症抗体保有率は皮内反応の成績では全年令で平均20.0%、高年齢になるに従って比率は上り、40.0%~50.0%の人々が一生に一度は感染していると云われている。

私共は昨年県内ではじめて屠場及び食肉関係者103名についてトキソプラスミンの皮内反応を実施した結果その半数以上の57.3%が陽性を示した。

これらの内訳は接種者のうち僅少の側を除けば職種別には家畜商の83.3%を最高とし、獣医師、屠夫等がこれに次ぎその他甚だしい差異は認められない。

次に年齢別には40才~49才が71.9%で最高、10才~19才が37.5%で最低を示し、若年層に比較して壮高年齢層に陽性者が多い。

又同時に行なった対照者14名については28.5%の陽性率である。

実施側数が少ないので以上の結果から本県のT症抗体保有率について今直ちに云々する訳には勿論行かないが、その陽性率は決して低いものではないと思われるので、これをいとぐちに今後更に追及を進めたいと考える。

参考文献

常松典之 トキソプラスマ症 日医会雑誌 50巻10号 昭和38年

トキソプラスマ 自然 第16巻7号 昭和36年

小林、伊藤、大山 秋田県に発生した豚のToxoplasma症について 北東北家畜保健衛生所業績発表会報告 昭和36年

田近、伊藤、大山、塩地 秋田県中央家畜保健衛生所豚トキソプラスマ症皮内及療抗元の野外応用調査 昭和38年